

駒ヶ根市文化財団奨励賞受賞者

平成 29 年度第 15 回「公益財団法人駒ヶ根市文化財団奨励賞受賞者」として、下記の 2 団体を決定しました。

記

1 受賞者 **高坂 キサ子** (個人)

[選考理由]

高坂キサ子氏は、昭和 50 年に「民謡を楽しみたい」との有志の要望のもとに民謡・三味線研究を始め、駒ヶ根市をはじめ伊那市・飯島町・高森町でも三味線普及活動を行い、80 歳を超えた現在でも 5 団体に指導を行っています。また、駒ヶ根市の民謡を掘り起こし、同好者を広げる機運・醸成に努力されております。

これまでに民謡・三味線を通じて団体育成・普及を図り、技能保存・振興に寄与し、公民館や福祉施設への慰問活動などに貢献した実績は高く評価でき、郷土芸能関係の発表会では「高坂先生の姿を見ない日は無い」とまで言われるほど活発に活動され、今年度で 30 回を迎えた「駒ヶ根郷土芸能まつり」には第 1 回から参加し、他の団体の模範となっています。

民謡・三味線の普及活動で市内外に文化的な影響を与えて来られた実績をたたえ、とともに、今後も後継者の育成と演奏活動されることを祈念し、奨励賞を贈ります。

1 受賞者 **田中 清文** (個人)

[選考理由]

田中清文氏は、平成 3 年から駒ヶ根市立博物館学芸員（現専門研究員）として通算 26 年間務める傍ら、平成 8 年から駒ヶ根市文化財審議会委員を 11 期務め、現在は副会長の要職にあります。

博物館が従来から担っている埋蔵文化財の発掘事業に従事し、博物館専門研究員として展示事業も行い教育情報発信に寄与している。考古からの歴史にも精通し、高遠石工の研究も行い沢山の著作物もある。駒ヶ根市文化財行政の重鎮であり、自営業を廃業し郷土史家として活動を生業としたことで、今後ますますの活躍が期待されると共に、長年に渡り活動されてきた実績を称え、奨励賞を贈ります。